

2015.1/24-25 東北ツーリズム大学遠野キャンパス

最近、遠野で展開するグリーン・ツーリズムには特徴があります。里山に暮らす人が遺伝的に持っている「暮らしのすべ(術)」を味わいたい多くの人たちが、民泊を通して「学べる何か」を確かがあると気付いてきたからだと思います。これは、東北ツーリズム大学の目指す「ラーニングバケーション」(学びの旅)そのものです。言い換えれば、人、仕事、暮らしが息づく土地を知り、その土地で楽しみながら学ぶという旅のスタイルが広がっているように感じます。遠野で展開するグリーン・ツーリズムは「暮らしている人の術(すべ)」が大きな資源です。土地の人に出逢い、郷土の食に舌鼓をうち、土地の暮らしに触れる、まさに旅の醍醐味がそこにあるからです。

10年以上となる東北ツーリズム大学の今年度の遠野キャンパスのテーマは「東北の民泊のもてなしを知ろう!!～地域の『人』と『食』が持っている魅惑～」。青森や秋田の農家民宿実践者の講演と意見交換会、遠野などの東北の食を参加者全員でつくる料理を通じた交流会、翌日は郷土芸能共演会に参加をするというのが主な内容でした。特に「農家民宿」「食」というキーワードを軸に、お互いが刺激しあう交流がなされたのが今回の大きな成果でした。また、海外からの来訪者との交流もここ数年増加傾向にあり、「言語の壁」をうまく越えながら交流を行っている事例も多数報告され、今後の東北の復興や地域づくりに農家民宿・民泊が大きな手段になることも確認した内容でした。

グリーン・ツーリズムの実践には、「身の丈」「地域間の均衡ある交流」「学び合い」「地域への誇り」「生きがいがづくり」などのキーワードがやはり必要だと改めて確認しました。来年度はさらに内容に更に磨きをかけて継続していきます。

